

様式2

令和4年度 大学との連携事業「つながる学び みと☆Future college」実施報告書

拠点校名 水戸市立大場小学校

連携大学 筑波大学

研究主題 投力向上を目指した授業改善や教材・教具の工夫、場の設定等の在り方について

1 主題設定の理由

本校では令和3年度より体力アップ推進プランとして、「投力アップチャレンジプラン」に取り組んでいる。

プランの概要としては、全学年が県平均を上回ることができるよう、正しい投動作の定着を目指すと同時に、児童が楽しみながら取り組むことができる環境づくりを行うことを掲げている。

表1は、本校における令和3年度の体力テスト(ソフトボール投げ)の結果である。男子では1年・2年・4年が、女子では2年が県平均を下回る結果となった。また、運動に関する児童の実態調査(表2)では、ボールを投げることに関して、得意と感じている児童が全体の3割以上はいるものの、残りの児童は得意とまでは感じていなかったり、苦手意識をもっていたりするなどの傾向が見られる。

そして、体力テストの苦手種目に関する質問からは、シャトルランに次いでソフトボール投げは2番目に苦手意識をもっていることがわかった。

以上のことから、本校の児童の半数以上がボールを投げたりすることに関して、得意とは感じていないことがわかった。投げることに自信がなかったり、苦手意識をもっていたりする児童の傾向が見られる。

そこで、投力向上を目指した授業改善や教材・教具、場の設定等の工夫をすることによって、児童が進んで体力向上に励み、技能を上達させたり、記録を向上させたりすることができるのではないかと考え本主題を設定した。

表1 令和3年度体力運動能力テスト【ソフトボール投げ】
※【 】は県平均値

	男子	女子
1年(現2学年)	7.1m【7.96m】	6.3m【5.84m】
2年(現3学年)	7.8m【10.73m】	7.2m【7.63m】
3年(現4学年)	17.8m【13.79m】	12.0m【9.71m】
4年(現5学年)	15.2m【16.99m】	12.8m【11.92m】
5年(現6学年)	23.9m【20.11m】	17.0m【14.11m】

表2 運動に関する児童の実態調査
(令和4.4.28実施全学年 女子51名 男子49名 合計100名)

①ボールを投げたりすることは得意ですか。 はい(31人) どちらでもない(45人) いいえ(24人)
②体力テストで苦手と感じる種目は何ですか。(一つ選択)
・シャトルラン(25人) ・ボール投げ(22人)
・握力(18人) ・50m走(11人)
・長座体前屈(9人) ・上体起こし(7人)
・立ち幅跳び(3人) ・反復横跳び(3人)

2 研究のねらい

投動作に関する，児童の技能向上や苦手意識の克服を目指した授業改善や教材・教具の工夫，業間運動等の計画を考察・提案する。

3 具体的な取組内容

(1) 投力向上のための模範授業

- ①実施日 令和4年7月6日（水）
- ②講師(授業者) 筑波大学体育系准教授
三田部 勇 先生
- ③実施学年 低・中・高学年ブロック
- ④実施方法 職員研修
- ⑤実施内容等



写真1 模範授業の様子（低学年）

投動作の向上・改善のための指導法や教具の工夫，場の設定等について，三田部先生による模範授業（写真1）を通して職員研修を実施した。

主に，写真2～10（一部抜粋）までの内容を学年ブロック（発達段階に応じた内容）ごとに実施（45分×3コマ）していただいた。

また，授業の様子をYouTubeに保存することで，中学校区の合同研修（7月）で活用することができた。そして，Google クラウド内にアップすることで研修会に参加できなかった職員なども視聴可能（オンデマンド型）となり，幅広く公開することができた。



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10

写真2～10 教具・場の設定の様子

(2) ボール運動（ベースボール型）の研究授業

- ①実施日 令和4年10月18日（火）
- ②授業者 教務主任，5・6年担任
- ③実施学年 高学年ブロック
- ④単元 ボール運動「ベースボール型」
- ⑤実施方法 職員研修（本校職員・常澄中学校区体育主任 他）



写真11 てるてるボールを投げる様子

⑥実施内容等

単元の前半は、攻撃側もバットを使わずにTボールを投げて進塁するゲーム（「集まりっこベースボール他」）を中心に行った。投げに特化したゲームとすることで、力強く投げたり、コントロールを意識して投げたりする様子が見られた。また、主運動につながる予備的運動には、模範授業での教具（写真9）を使用したり、玉入れの玉をビニール袋に入れた「てるてるボール」（写真11）を投げたりしながら投動作を向上させるためのトレーニングを実践した。

(3) ネット型ゲームの研究授業

- ①実施日 令和4年12月15日（木）
- ②授業者 1年担任（体育主任），4年担任
- ③実施学年 中学年ブロック
- ④単元 ゲーム「ネット型ゲーム」
- ⑤実施方法



写真12 単元終盤のゲームの様子

- ア 公開授業（市内小中学校体育主任・体育大好き推進委員 他）
- イ 指導講評 三田部 勇 先生
- ウ グループ協議「投力向上を目指した授業実践等の取組について」

⑥実施内容等

本単元は、ボンバーボール（ビニール袋に緩衝材を入れたボール）の特性を生かしたり、場の設定やルールの工夫をしたりすることで、誰でもゲームを楽しみながら投動作が向上することを目標に単元を計画した。単元前半は、ボンバーをより遠くへ投げたり、捕球後に素早く投げたりするためのチーム練習を取り入れ、身に付けた投動作をゲームで発揮できるようにした。単元後半では、強弱をつけて投げたりすることに加え、パスの有効性についてチームで考えることで、ボールを持たないときの動きを児童が理解しながら、チームの作戦へとつなげていき、ゲーム（写真12）で発揮できるようにした。

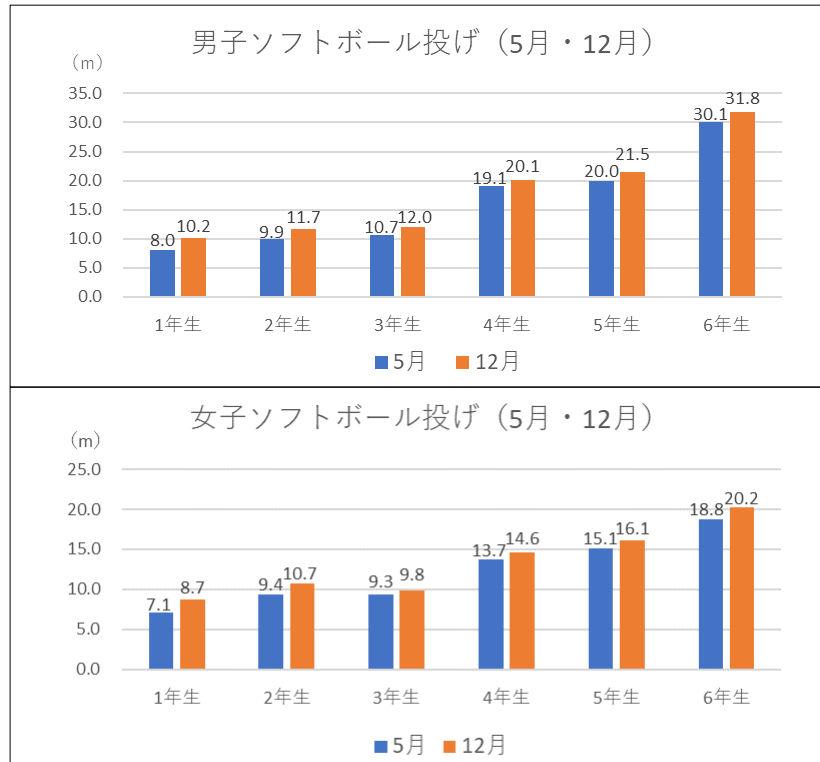
4 成果（進捗状況と今後の課題）

(1) 体力テスト結果から

5月に実施した体力テスト（ソフトボール投げ）の記録と、12月に全学年で実施した再測定記録を比較した結果（表3）から、6学年中5学年で平均記録を1m以上更

新していることがわかった。そして、個人のデータからも1 m以上記録を伸ばした児童は全体で52%いることがわかった。しかし、残りの48%の児童は、記録が変わらなかったり、下がってしまったりするなど、課題も見られる結果となった。

表3 体カテストの比較（5月・12月）
※全学年実施（女子51名、男子49名 合計100名）



(2) 授業実践から（模範授業・研究授業・公開授業）

模範授業（7月）を通して、投動作を高めるための教具や場の設定の工夫などについて、本校職員だけでなく中学校区で共有しながら研修することができた。児童の発達段階を踏まえ、投運動に特化した授業形態だったので補助運動から主運動まで多岐にわたる実技指導のポイントを研修することができた。

高学年ブロックの研究授業（10月、ベースボール型）では、打つ動作よりも、投げる動作をメインに指導したことで、児童の作戦会議や振り返り等では、遠くに投げたり、狙って投げたりすることについて話し合ったり、書いたりする様子が見られた。

公開授業（12月）では、投動作向上のための授業づくりに関して、三田部先生の指導講評を始め、各校体育主任や県の体育大好き推進委員の先生方から意見をいただいたり、各校の取組について情報交換したりするなど、有意義な研修の場となった。

そして、1年間取り組んできて課題と感ずることの一つは、大学との連携方法や研修成果の活用方法についてである。今年度は、出前授業や公開授業等の形態を取りながら連携を行ってきたが、次年度はオンラインシステムを有効に使った方法等も検討していきたい。例えば、投動作に課題のある児童の動画を事前に共有サイトにアップしておくことで、改善のポイントや課題等について大学と小学校が共有できることや、大学生の実演を動画集（グッドモデル集）として市内の共有スペースに保存しておくことで誰でも授業に取り入れ、活用できることなどが挙げられる。